古石ひでさと4期目に向かっての議会活動
ひでさと
古石
後援会だより
URL：http://古石.com/

第　3546号
発行令和３年２月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　26－2226

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。
E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

森氏発言　「前神代的」

森氏発言「前近代的」

「女性蔑視」釈明会見

道民「偏見さらした」

東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長は4日の記者会見で、前日の女性理事発言を「不適切だった」と撤回した一方、スポーツ庁が競技団体の女性理事の割合を40％以上にする目標を設定したことで「（現場が）苦労されている」と述べるなど、女性登用に否定的と取れる発言を繰り返した。不都合な質問に語気を強めて反論する場面もあり、道民からは「ジェンダーの平等の認識が欠如している」「前近代的で恥ずかしい」などの批判が相次いだ。（岩崎あんり、石垣総静、久保吉史）

「論外だ。国際的な感覚からかけ離れているという意識もなく発言していることが問題だ」。陸上クラブチーム「北海道ハイテクAC」（恵庭市）の元監督で、2008年の北京大会から3大会連続で五輪に出場した福島千里選手など多くの女性アスリートを育成した中村宏之さん（75）は、森氏を厳しく批判した。

森氏は3日の日本オリンピック委員会（JOC）臨時評議員会で「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」などと発言。4日の会見では発言を撤回したが、発言した理由を質問した記者に「（記事を）面白おかしくしたいから聞いてるんだろ」などと逆質問する場面もあった。

道内のLGBTなど性的少数者を支援するNPO法人「L－Port（エルポート）」（札幌）の工藤久美子さん（46）は「謝罪する人の態度ではなかった。発言は本音だったとしか思えない」と非難。森氏の発言は「多様なセクシュアリティ（人間の性のあり方）の尊重」が明記された五輪憲章にも違反しているとし、「性的少数者への理解が広がりつつある中、リーダーが前近代的な偏見をさらけ出すとは」と憤った。

森氏が会見で、競技団体の女性理事の割合目標を問題視するような発言をしたことに関し、社会的性差を指すジェンダー問題に詳しい北大公共政策大学院の馬場香織准教授（比較政治）は「ジェンダーの平等を実現するための積極的な措置という目標の意義を理解していないことは明らか。不平等の原因を放置してグチを言っているようなもので、的外れだ」と指摘。「海外からの批判も予想できなかったことが、現在の日本のジェンダーの平等に対する認識の欠如を表している」と話した。

五輪開催への影響を懸念する声も広がった。聖火ランナーに選ばれた帯広市の会社員長野喜美恵さん（57）は「森氏は五輪のトップにふさわしいとは思えない。大会実現に取り組む現場のやる気をそぐ」と反発した。

マラソン・競歩などの会場になっている札幌市の中田雅幸スポーツ局長は「関係者が準備を進めている中、非常に残念な発言だった」と困惑。道幹部は「森氏の発言をきっかけに『五輪開催ありき』という政府の判断への不満が噴出しかねない」と懸念した。

かじ取り無理

作家のあさのあつこさんの話　東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長が、心から悔いているようには見えなかった。どういう意図で女性差別とも取れる発言をしたのか、取材対応での説明を聞いても分からなかった。心底にある女性への蔑視が出たと取られても仕方がないと思う。こんな発言をする人が組織委のトップであることに不快感を覚える。東京五輪を開催するにしても、中止するにしても、大切なかじ取りを担うのは無理だろう。責任を取るには会長を辞めるしかない。

欧州議員「黙りなさい」

海外でも批判噴出

森喜朗会長が会議で「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる。みんな発言される」と発言した問題を巡り、海外でも「性差別」「時代遅れ」などと批判が噴出、波紋を広げている。

「いえいえ、森さん、女性は簡単に黙らせますよ。例えば、あなたにお答えするには『黙りなさい』で十分」。フランスの欧州担当相を務めた女性のロワゾー欧州議会議員はすぐにツイッターで不快感を表明した。

「森氏が性差別的発言」と米大衆紙ニューヨーク・ポスト。新型コロナウイルス問題を抱える東京五輪がさらなる難題に直面したとした上で「今回は自分でまいた種」と皮肉った。

AP通信は「政界などに女性が極めて少ない日本で大論争を巻き起こした」と指摘した上で「森氏は辞任に追い込まれる可能性もある」と伝えた。

米紙ニューヨーク・タイムズは「森氏の時代遅れの態度こそが本当の問題」などと、インターネットで広がる批判の声を取り上げ「会議の中で誰も異論を唱えなかったことに不快感を示す人もいた」とも指摘した。（ワシントン、ロサンゼルス共同）

日本オリンピック委員会臨時評議員会での女性理事を巡る発言について取材に応じ、さまざまな表情を見せる東京五輪・パラリンピック組織委の森喜朗会長

謝罪と裏腹　反省伝わらず

午後2時すぎから始まった記者会見で森喜朗会長は、発言を謝罪したものの、記者の質問にはいら立ちを隠さず、最後は一方的に打ち切った。苦々しい表情で会場を後にする姿からは、反省の様子は伝わらなかった。

冒頭、神妙な口調で「おわびして訂正、撤回する」と切り出した森氏だが、辞任は否定。辞意について改めて問われると、笑みを浮かべながら「老害が粗大ごみになったら、掃いてもらえばいい」と自嘲的に話した。

厳しい質問が飛ぶにつれ表情は険しさを増し、記者に「（会長に）適任でない」と指摘されると、不機嫌な顔つきに。そっぽを向き手で質問を遮ろうとした。

女性蔑視と受け取れる発言の撤回を表明しながら、多くの団体から女性理事を増やして運営に苦労したと聞いたと説明。最後に「（批判を）謙虚に受け止める」と述べ、軽く頭を下げたものの、眉間には深いしわが刻まれていた。

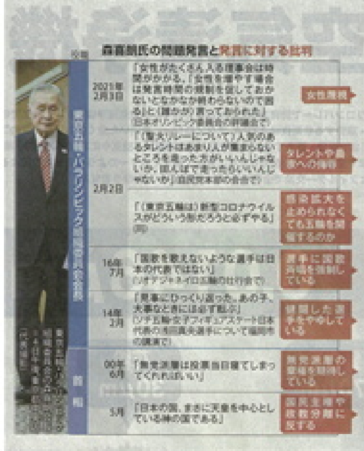
フォーカス
FOCUS

東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長の女性蔑視発言に対し、国内外で厳しい批判の声が上がっている。大会への影響を最小限に抑えたい組織委は発言翌日の4日に森氏本人による釈明の場を設けたが、開き直りとも取れる説明にイメージダウンは必至。東京大会の「顔」にふさわしくないとの世論が高まり、辞任圧力が強まる可能性がある。

「女性蔑視」謝罪したが…森会長続く失言

正念場　五輪に冷や水

会見で開き直り　イメージ悪化も



森喜朗氏の問題発言と発言に対する批判

		発言	批判
東京五輪・パラリンピック組織委員会会長	2021年2月3日	「女性がたくさん入る理事会は時間がかかる。「女性を増やす場合は発言時間の規制を促しておかないとなかなか終わらないので困る」と（誰かが）言っておられた」（日本オリンピック委員会の評議会で）	女性蔑視
		「（聖火リレーについて）人気のあるタレントはあまり人が集まらないところを走った方がいいんじゃないか。田んぼで走ったらいいんじゃないか」（自民党本部の会合で）	タレントや農家への侮辱
	2月2日	「（東京五輪は）新型コロナウイルスがどういう形だろうと必ずやる」（同）	感染拡大を止められなくても五輪を開催するのか
	16年7月	「国歌を歌えないような選手は日本の代表ではない」（リオデジャネイロ五輪の壮行会で）	選手に国歌斉唱を強制している
	14年2月	「見事にひっくり返った。あの子、大事なときには必ず転ぶ」（ソチ五輪・女子フィギュアスケート日本代表の浅田真央選手について福岡市の講演で）	健闘した選手をやゆしている
首相	00年6月	「無党派層は投票当日寝てしまってくれればいい」	無党派層の意思を軽視している
	5月	「日本の国、まさに天皇を中心としている神の国である」	国民主権や政教分離に反する

「常識にずれ」「不用意」

与野党批判　首相は対応及び腰

「とんでん」店名に「北海道生まれ」

道産食材のメニューも拡充

店名に「北海道」を追加したさいたま市の白幡店

スポーツ界　厳しい声

森喜朗会長の女性蔑視発言に対し、スポーツ界から、厳しい声が相次いだ。女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」のチェアで、本サッカー協会の岡島喜子副会長は「非常に残念。性が議論に入ることのプの面に目を向けていたきたかった」とコメント。本パラ陸上競技連盟の増明美会長は「（組織に）性をどんどん増やさないいけない時期。（男女が）緒に頑張るのが本来の姿」と強調した。

強化体制を巡る騒動に揺れた全日本テコンドー協会で、刷新を強く訴えた高橋美穂前理事は「いろいろな会議を見てきたが、森さんのようにずれている発言をする方も多い」と話す。ある競技団体の女性役員は「正直、気分は良くない。静かに（会長職を）退いていただくのが、五輪開催へ向けての最大の貢献」と辞任を求めた。

現役アスリートからも声が上がり、競泳女子で2012年ロンドン五輪メダリストの鈴木聡美選手（ミキハウス）は「かなり残念。怒りも正直あった」と打ち明けた。

順天堂大女性スポーツ研究センターの小笠原悦子センター長は「気の置けない仲間の中で言うような話で、どの角度から見られるか気が付いていなかった。（自身の発言に）影響力があるという自覚を持っていないのではと感じた」と話した。

首相　追及に防戦一方

衆院委　コロナ対策不備／「政治とカネ」

長男接待疑惑は詳細回避

2021年度予算案が審議入りした4日の衆院予算委員会で、菅義偉首相は新型コロナウイルス対策などを巡り守勢に立たされた。ワクチン接種開始の前倒しや、休業支援金の拡充を打ち出したが、接触確認アプリの不具合や緊急事態宣言延長について追及されると防戦一方に。「政治とカネ」を巡る問題や、自身の長男の総務省幹部接待疑惑では詳しい答弁を避けた。（1面参照）

「お粗末なことだった。二度とこうしたことがないよう、緊張感を持って対応する」。首相はスマートフォン向けの新型コロナ接触確認アプリ「COCOA（ココア）」の一部で、昨年9月下旬以降、陽性者との接触通知が届かない不具合があったことを陳謝した。

昨年6月の配信以降、政府は同アプリの積極利用を呼び掛けてきただけに、立憲民主党の玄葉光一郎氏は「4カ月間も不具合に気付かなかったのはとても残念だ」と苦言を呈した。

午前の自民党議員の質問では、首相は追加の新型コロナ対策を強調した。中小企業の従業員向けの休業支援金・給付金を拡充し、大企業の非正規労働者を対象に加える方針を表明。ワクチンの接種開始を2月下旬から2月中旬に前倒しする考えも示した。

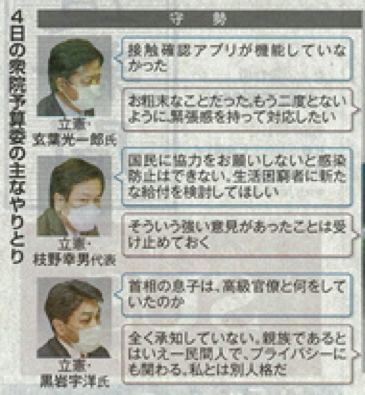
だが午後には一転、野党から対策の遅れや不備を追及された。立憲の枝野幸男代表は、収入が減った世帯向けの生活費貸し付け「総合支援資金」で、返済免除の要件を明示するよう要求。「早く決めないと絵に描いた餅になる」との訴えに、首相は「絵に描いた餅と言われないようにする」と話をそらした。さらに困窮世帯への追加現金給付を求められても「強い意見があったことは受け止める」と述べるにとどめた。

首相は10都府県で延長した緊急事態宣言について「国民に不便をかけて申し訳ない。もう1カ月協力してほしい」と呼び掛けるなど低姿勢も見せたが、政治とカネを巡る問題などに話題が及ぶと、口をつぐんだ。

公選法違反事件で有罪が確定した河井案里前参院議員や、安倍晋三前首相の「桜を見る会」前日の夕食会費補填問題を挙げた立憲の菊田真紀子氏は「首相が先頭に立ち政治不信の払拭に努めて」と迫ったが、首相は「政治家は責任を自覚し、疑念を持たれないよう襟を正すべきだ」と従来答弁を繰り返した。

放送事業会社勤務の長男が総務省幹部を接待したとの週刊誌報道について追及されると、「全く承知して

4日の衆院予算委の主なやりとり



守勢

立憲・玄葉光一郎氏「接触確認アプリが機能していなかった」
「お粗末なことだった。もう二度とないように緊張感を持って対応したい」
立憲・枝野幸男代表「国民に協力をお願いしないと感染防止はできない。生活困窮者に新たな給付を検討してほしい」
「そういう強い意見があったことは受け止めておく」
立憲・黒岩宇洋氏「首相の息子は、高級官僚と何をしていたのか」
「全く承知していない。親族であるとはいえ一民間人で、プライバシーにも関わる。私とは別人格だ」
菅義偉首相